

労働 G メン まこやんの事件簿

監督官の品位を傷つけず、守秘義務にも触れない程度の昔話

「メタボ監督官、山へ」の巻

By まこやんこと 谷口誠

あらゆるところへ

監督官の守備範囲は「労働者が働いているところ全て」ということであり、非常に幅広い。従って、監督官が臨検を行う場所も非常にバライティーに富んでいる。

時にはマイナス30度の冷凍室に入り、時には真っ赤に熱せられた真鍮の圧延工程を間近に見る。ある時は地下数十メートルのトンネルの中を歩き回り、ある時には地上100メートル以上の鉄塔に登ることもある。

スイートな香りがたちこめるお菓子工場に行くことがあれば、息が苦しくなるほどの刺激臭漂う化学工場に行くこともあり、溶接の閃光が飛び交う造船所を巡回したかと思えば、作業場全体が暗室のように暗いフィルム工場を手探りで歩くこともある。

そんな様々な経験を有するベテラン監督官をして、「あれは大変だったなあ」と述懐せしめる共通の臨検先といえば・・・

「林業現場」ではなかろうか

林業といえば

林業が作業者の高齢化、若者の山村離れによる後継者不足等、様々な問題に直面していることは周知の事実だが、労働安全衛生の面でも様々な問題がある。労働者の高齢化が著しいことに加え、木材伐採時の事故、木材搬出時の事故、高所からの墜落・転落、集材装置や大型機械による事故、熱中症など、屋外作業特有の危険が伴い、さらには

「蜂に刺される」「マムシに噛まれる」「なんだか分からぬ虫に刺される」「植物にかぶれる」「難聴や振動病」なども見られ、災害発生率が非常に高いという問題がある。こんなことから、監督署では、林業現場への臨検も行っているのだが・・・

猛暑の中の災害報告

田舎の署での勤務時代。とある猛暑の日、チェンソー作業をしていた林業労働者が、

熱中症で倒れ、持っていたチェンソーが足に当たって重症を負う。現在、意識不明の重体」という連絡が入った。

報告のため監督署にやってきた森林組合の職員のA氏は



救急搬入されましたが、容体は思わしくない。危ないです

という。直ちに部下のS監督官と一緒に災害現場に向かうことになった。

とっても不安

林業となると「現場がどこにあるのか」ということがとても気にかかる。

林道に近い現場もあるが、往々にして彼らの作業場所は、とんでもない山奥であることが多いのである。A氏によれば、



車で行ける林道から、少し下がった場所です。すぐ着きますって

とのことだが、果たして・・・

というのも、林業現場のハードさは監督官共通の認識であり、職員同士の雑談でも



林業労働者は山のスーパーマン



「ちょっと行ったところですよ」が、実際には、二山越えた先だった



「20分先です」と言われ、ついていったら3時間



行くだけで、精も根も尽き果てた

という話が必ず出てくるのである。

一方、当時の私といえば、

「タバコを買いに、70メートル先の自販機へ行くのにも自家用車を使う」

という無精かつ運動不足の塊の生活・・・

「この猛暑の中、メタボな俺で大丈夫か?」と不安がよぎる。

現場に向かう車中、案内のA氏に念を押す。



被災者は、どうやら持ち直したみたいですね



1

被災者よりも重篤な状態になっている

終わり